

広島県内の主要産業の動向（2024年11月）

2024年11月

株式会社ひろぎんホールディングス
経済産業調査部



	ページ
サマリー（県内主要産業の見通し）	2
1. 自動車	3
2. 自動車部品	4
3. 造船	5
4. 工作機械	6
5. 産業機械	7
6. 電子部品・デバイス	8
7. 鉄鋼	9
8. 大型小売	10
9. 自動車販売	11
10. ホテル	12
11. 建築・土木	13
12. 住宅・マンション	14
13. 陸運	15
14. 海運	16

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんホールディングス経済産業調査部（082-247-4958）までお願いします。

サマリー（県内主要産業の見通し）

製造業の見通し

- 自動車は、新車投入効果等から完成車メーカーの販売は底堅く推移するものの、国内生産は伸び悩むことから自動車部品メーカーの回復ペースは緩やかなものとどまる。
- 造船は業績がさらに上向き、電子部品・デバイスでは堅調な半導体需要を背景に生産の増加基調が続く。

業種	最近 (24年度上)	今後 (24年度下)	当面の見通し
1 自動車			新車効果等により販売は底堅いが、国内生産は伸び悩み
2 自動車部品			受注・生産の回復ペースは緩やか
3 造船			高船価船の竣工等から業績はさらに上向く
4 工作機械			需要の底打ちを受けて生産は回復に向かう
5 産業機械			生産用機械を中心に全体として低調
6 電子部品・デバイス			堅調な需要を受けて生産の増加基調が続く
7 鉄鋼			内需・外需ともに低調に推移

非製造業の見通し

- 大型小売は消費マインドの目に見えた改善は期待し難く、全体として伸び悩む見通し。
- ホテルはインバウンドの拡大を受けて好調が続く、建築・土木も底堅く推移。住宅・マンションは販売価格上昇を背景に需要は低調、陸運も業績改善には時間を要する。

業種	最近 (24年度上)	今後 (24年度下)	当面の見通し
8 大型小売			全体として伸び悩む
9 自動車販売			不正認証問題がほぼ解消され回復に向かう
10 ホテル			インバウンドの拡大から宿泊の好調が続く
11 建築・土木			民間工事・公共工事とも底堅く推移
12 住宅・マンション			価格上昇を受けて低調に推移
13 陸運			業績改善には時間を要する
14 海運			輸送距離の伸長等から高水準続く

天気図

好調



不調



1. 自動車 ～新車効果等により販売は底堅いが、国内生産は伸び悩み～

最近の動き

- 2024年度上期のマツダのグローバル販売台数は105千台/月（前年同期比+2.2%）と、前年を上回った。国内販売は低調であったものの、主力の北米が現地生産の「CX-50」や今春、新規投入した「CX-70」を中心に堅調に推移した。
- グローバル生産台数は100千台/月（同+1.6%）と、北米での生産拡大を受けて前年を上回った。ただし、国内生産は天候不良による操業停止の影響などもあり、前年を下回った。
- 業績は、為替の円安や台数増加・商品構成変化といったプラス要因の一方で、原材料・物流費などのコスト増加や米国での競争激化に伴う販売奨励金の増加を受けて減益に転じた。

当面の見通し

- **グローバル販売・生産**は、北米向け「CX-90」・「CX-70」、欧州・日本向け「CX-80」、中国向け「EZ-6」といった新型モデルの投入効果などから、**底堅く推移**するとみられる。
- ただし、**国内生産**は、2025年にフルモデルチェンジが予定されている主力量販車「CX-5」の減少や、欧州・日本向けの「CX-60」の新車効果の剥落などが見込まれることから、**伸び悩み**見通し。
- なお、マツダの2025年3月期の業績見通しは、販売奨励金の増加などから、営業減益に下方修正された。

マツダのグローバル生産・販売台数の推移と2024年度の業績

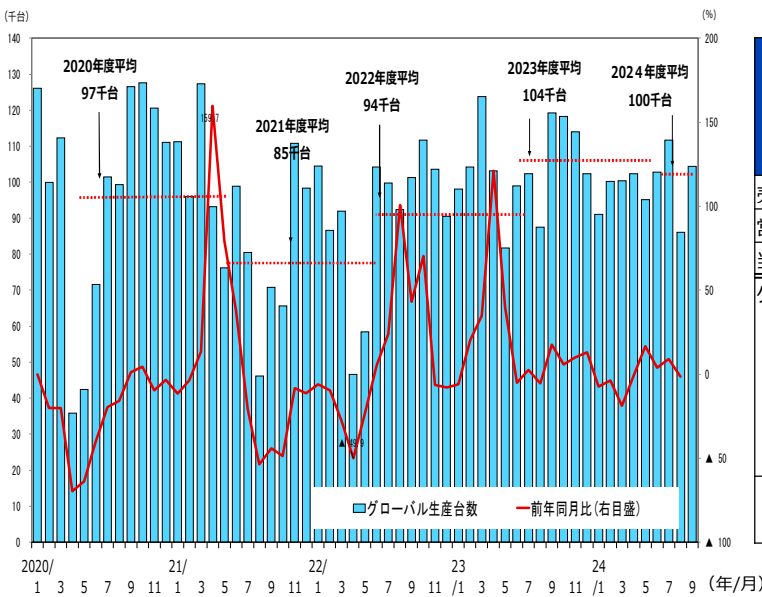
【グローバル生産・販売台数（月平均）】

(千台、%)

	グローバル生産				グローバル販売	
	前年 同期比	うち 国内	前年 同期比		前年 同期比	
20年度上期	80	▲34.2%	45	▲45.8%	96	▲20.9%
下期	116	▲2.1%	79	1.3%	118	3.0%
21年度上期	78	▲2.4%	52	14.3%	110	14.2%
下期	93	▲19.6%	64	▲19.0%	98	▲16.7%
22年度上期	84	8.0%	56	8.0%	86	▲22.1%
下期	105	13.3%	71	11.2%	99	0.9%
23年度上期	99	17.9%	67	18.6%	103	19.8%
下期	104	▲0.9%	67	▲6.5%	104	4.8%
24年度上期	100	1.6%	63	▲5.9%	105	2.2%

(資料) マツダ(株)資料より当部作成

【グローバル生産台数】



【2024年度の業績】

(億円、千台、円)

	24年4～9月期 (24年度上期)		25年3月期 通期見通し (24年11月7日修正)	
		前年 同期比		前期比
売上高	23,939	766	50,000	1,723
営業利益	1,030	▲266	2,000	▲505
当期純利益	353	▲728	1,400	▲677
グローバル販売台数	630	14	1,350	109
日本	64	▲18	150	▲10
北米	304	53	605	91
欧州	89	▲1	183	3
中国	34	▲11	98	1
その他	139	▲9	314	24
為替 レート	対USD	153	12	149
	対EUR	166	13	163

2. 自動車部品 ～受注・生産の回復ペースは緩やか～

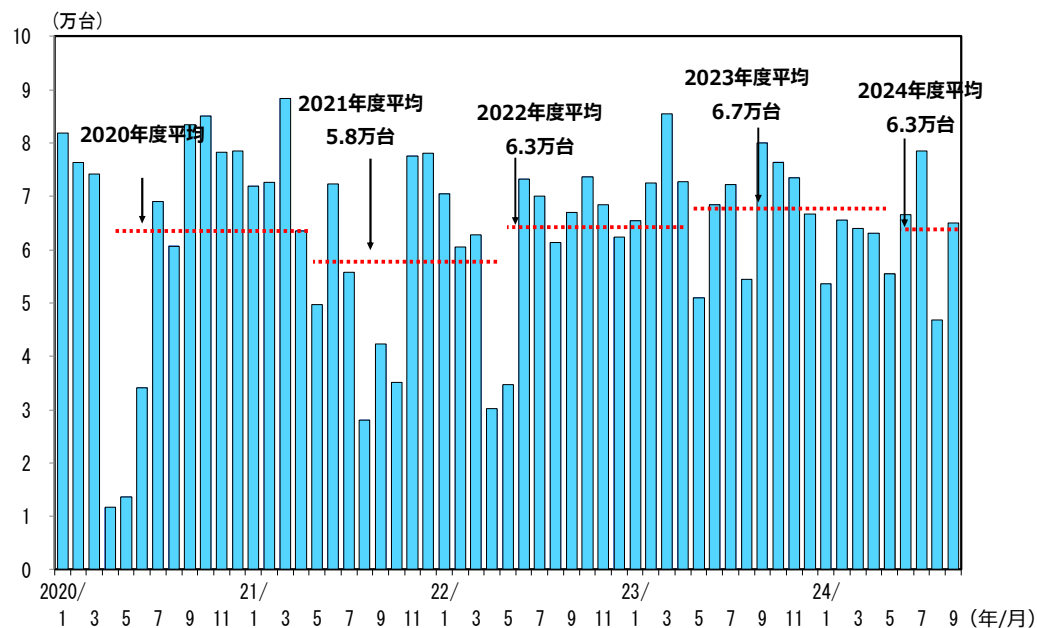
最近の動き

- 2024年度上期のマツダの国内生産台数は6.3万台/月（前年同期比▲5.9%）と、欧州・日本向け「CX-60」の減少や8月の天候不順による操業停止の影響などもあり、前年割れとなった。
- こうした中で、広島県の自動車部門の鋳工業生産指数（2024年4～8月）は80.7（同▲12.1%）と、前年を下回った。
- 業績は、生産の低調に加え、エネルギー価格の高止まりや人件費の上昇等によるコスト負担の増加から、総じて弱含んだ。

当面の見通し

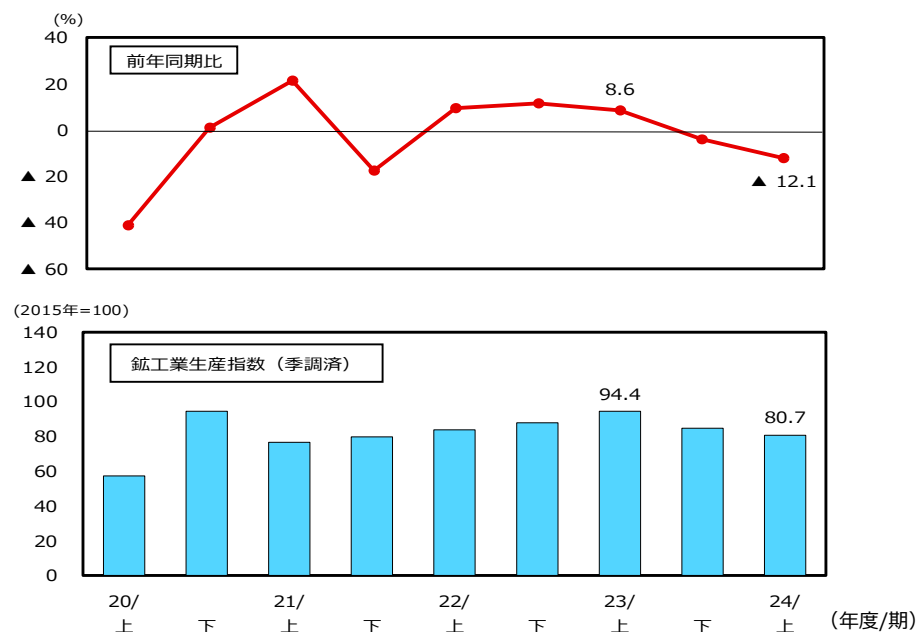
- **受注および生産**は、マツダの国内生産が主力の「CX-5」などを中心に伸び悩む公算が大きいことから、**回復ペースは緩やかなもの**にとどまる見通し。
- **業績**は、受注・生産の大幅な回復が見込み難いことに加えて、人件費等のコスト増がマイナス材料となることから、**総じて前年を下回る**見通し。

マツダの国内生産台数の推移



(注) 2024年度平均は上期実績
(資料) マツダ(株)資料より当部作成

自動車部門の鋳工業生産指数の推移（広島県）



(注) 2024年度上期は4～8月
(資料) 広島県資料より当部作成

3. 造船 ～高船価船の竣工等から業績はさらに上向く～

最近の動き



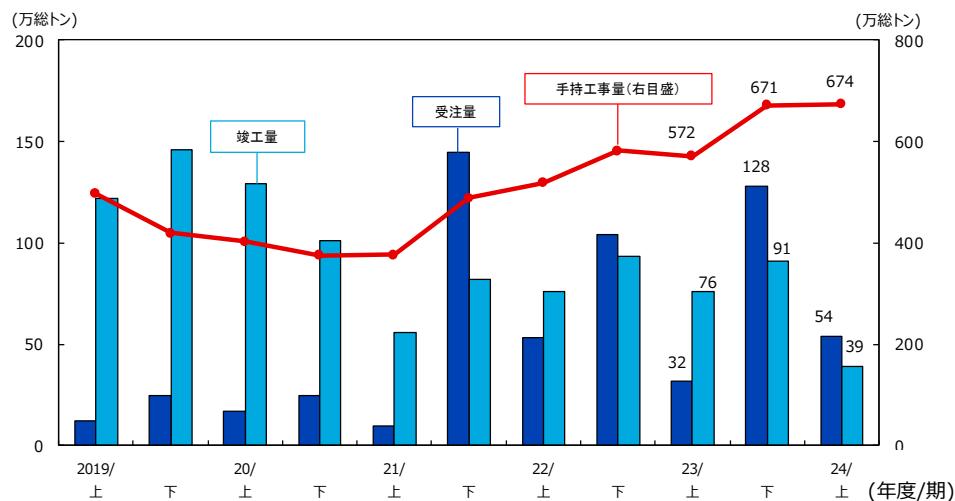
- 2024年度上期（4～7月）の県内造船所の受注量は54万総トン（前年同期比1.6倍）と前年を上回り、7月末の手持工事量は674万総トンと、安定操業の目安とされる2年を大きく上回る3年超に達した。
- この結果、一部事業者では、2029年の新造船商談を進める動きもみられている。
- 業績は、コロナ禍以降に受注した高船価船の竣工や為替の円安基調を受けて改善が進んだ。ただし、日本円での受注契約が中心の一部の中小造船所では、鋼材価格や船用機器、労務費の上昇が収益を圧迫した。

当面の見通し



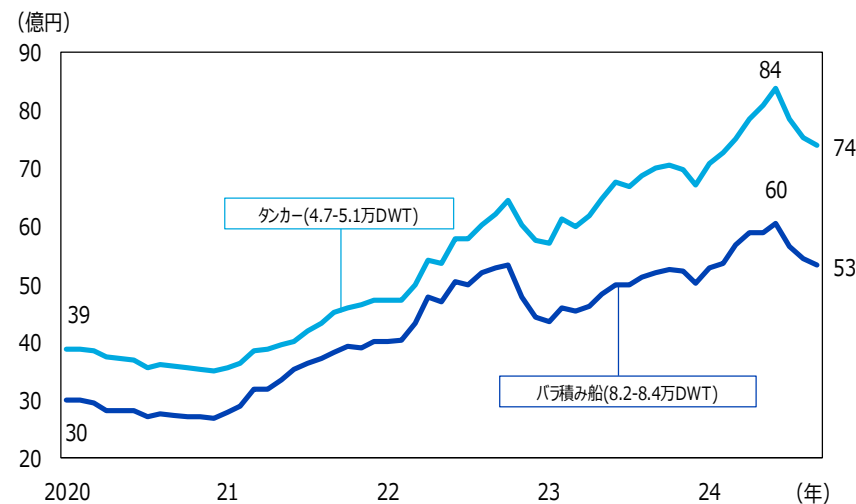
- **引き合い**は、2010年前後の大量竣工船のリプレース需要を中心に**活発化**している。競合する中国および韓国造船所が大型コンテナ船やLNG運搬船などの受注を強化する中で、地元造船業が得意とするバルカーの引き合いが増加している。
- ただし、高水準の手持工事量と深刻な人手不足に加え、鋼材価格の上昇や為替変動リスクへの懸念等から、多くの造船所が案件の選別姿勢を強める中で、**受注は横這い圏内**にとどまる公算が大きい。
- **業績**は、竣工船価の上昇と為替の円安基調を背景に**さらに上向く**とみられる。

造船業の受注・竣工・手持工事量の推移（広島県）



(注1) 24年度上期は4～7月 (注2) 手持工事量は各期末(24年度上期は7月末)
(資料) 中国運輸局資料より当部作成

新造船価（受注船価）の推移



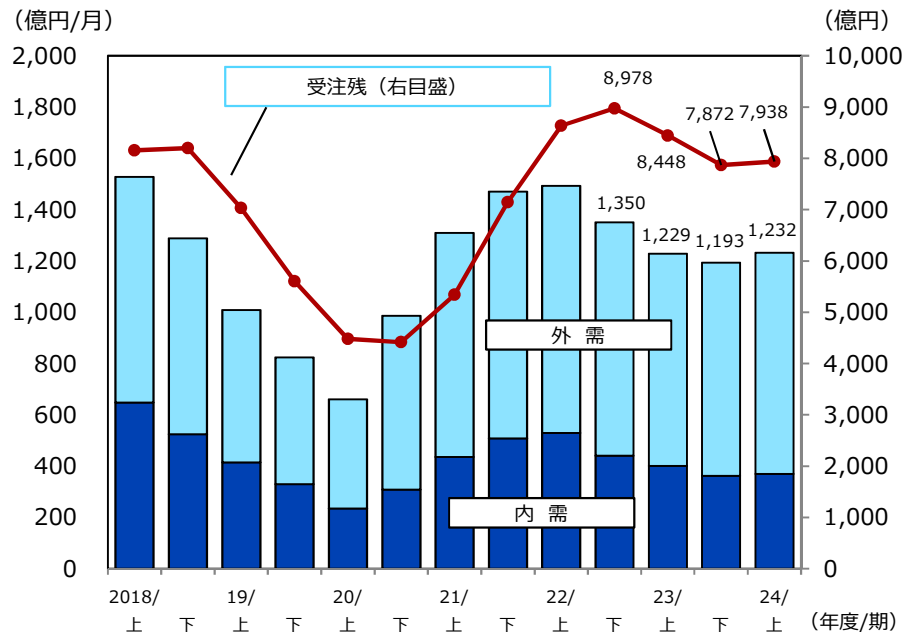
(注) 船価(円ベース) = 船価(ドルベース) × ドル円レート(月末値)、直近は24年9月
(資料) Clarksons Research、日本銀行より当部作成

4. 工作機械 ～需要の底打ちを受けて生産は回復に向かう～

最近の動き

- 需要は、外需は中国向けの低迷を堅調な東南アジア向け等がカバーする形で増加基調を維持したものの、内需は自動車関連を中心に低調が続く、全体では横ばい圏内での推移となった。
- 因みに、2024年度上期の全国の工作機械メーカーの受注額は1,232億円/月（前年同期比+0.3%）と前年並みにとどまった。
- 生産は、需要の低迷を受けて弱めの動きが続いており、2024年8月の国内生産額は736億円（前年同月比▲8.0%）と、16ヵ月連続して前年を下回った。
- 業績は、生産の低迷等を受けて、多くの企業で減収減益となった。

工作機械の受注額（月平均）・受注残の推移（全国）

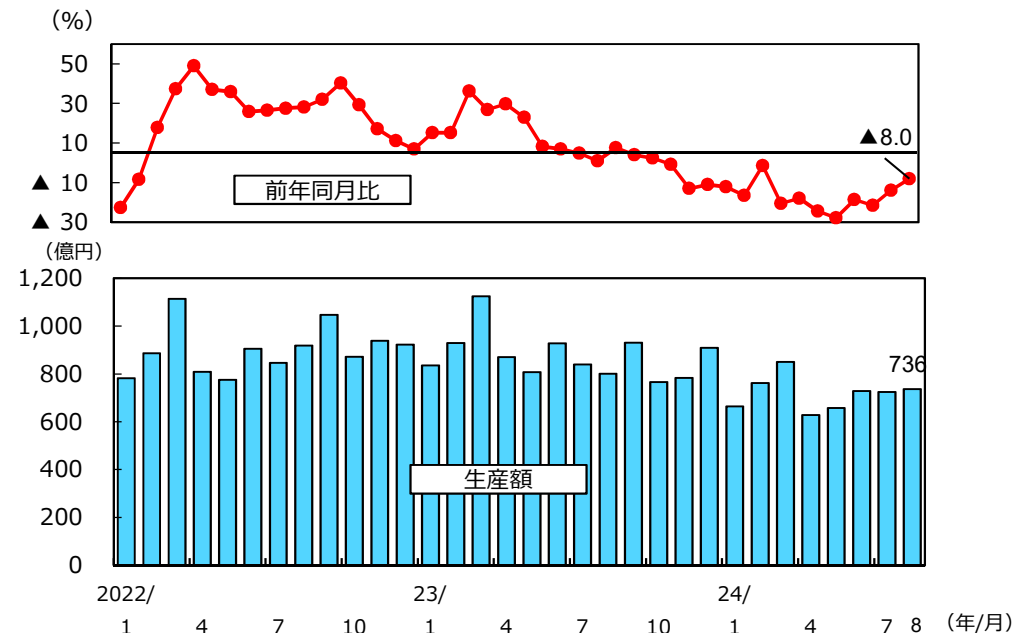


（注）受注残は各期末時点（24年度上期は9月末時点）
（資料）（一社）日本工作機械工業会資料より当部作成

当面の見通し

- 需要は、外需が中国向けの緩やかな持ち直しが見込まれる中で底堅く推移する一方、内需も自動車向けの回復や堅調な設備投資を背景に上向くとみられ、全体では**回復基調に転じる**見込み。
- 生産は、需要の底打ちを受けて**回復に向かう**とみられ、**業績も改善に向かう**公算が大きい。

工作機械の生産額の推移（全国）



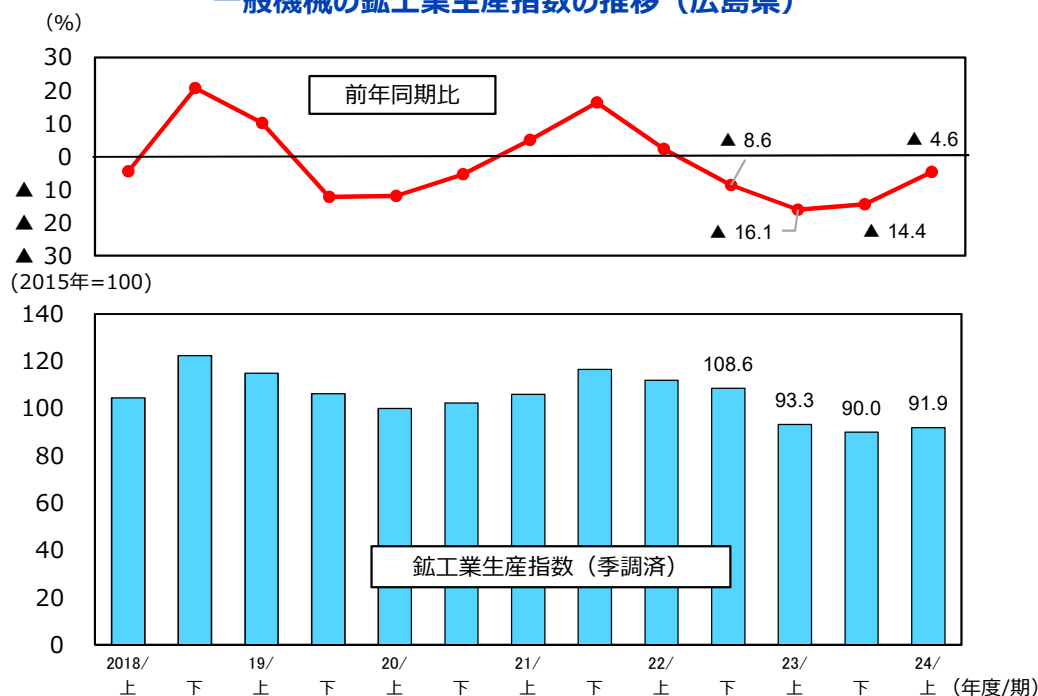
（資料）経済産業省資料より当部作成

5. 産業機械 ～生産用機械を中心に全体として低調～

最近の動き

- 需要および生産は、建設機械をはじめとした生産用機械が欧州向けを中心に低迷したことに加え、ボイラ・タービン等のはん用機械も弱含んだことから、全体では低調に推移した。
- 因みに、2024年度上期（4～8月）の広島県の一般機械の鉱工業生産指数は91.9（前年同期比▲4.6%）と、引き続き前年割れとなった。
- 業績は、生産の低迷により、減収減益基調で推移した。

一般機械の鉱工業生産指数の推移（広島県）

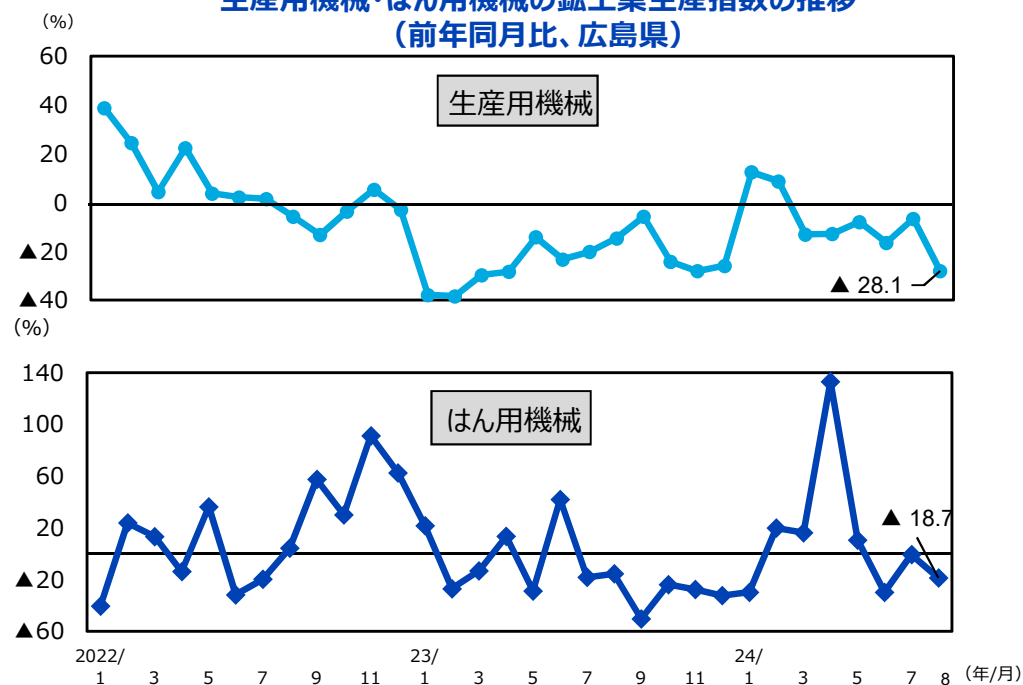


(注1) 24年度上期は4～8月
(資料) 広島県資料より当部作成

当面の見通し

- 需要および生産は、はん用機械は中東向けを中心に回復に向かうとみられるものの、建設機械などの生産用機械では弱めの動きが続く公算が大きく、**全体として低調に推移する見通し**。
- 業績は、為替の円安基調はプラス材料となるものの、低調な生産を受けて**減収減益基調**が続く見通し。

生産用機械・はん用機械の鉱工業生産指数の推移
(前年同月比、広島県)



(資料) 広島県資料より当部作成

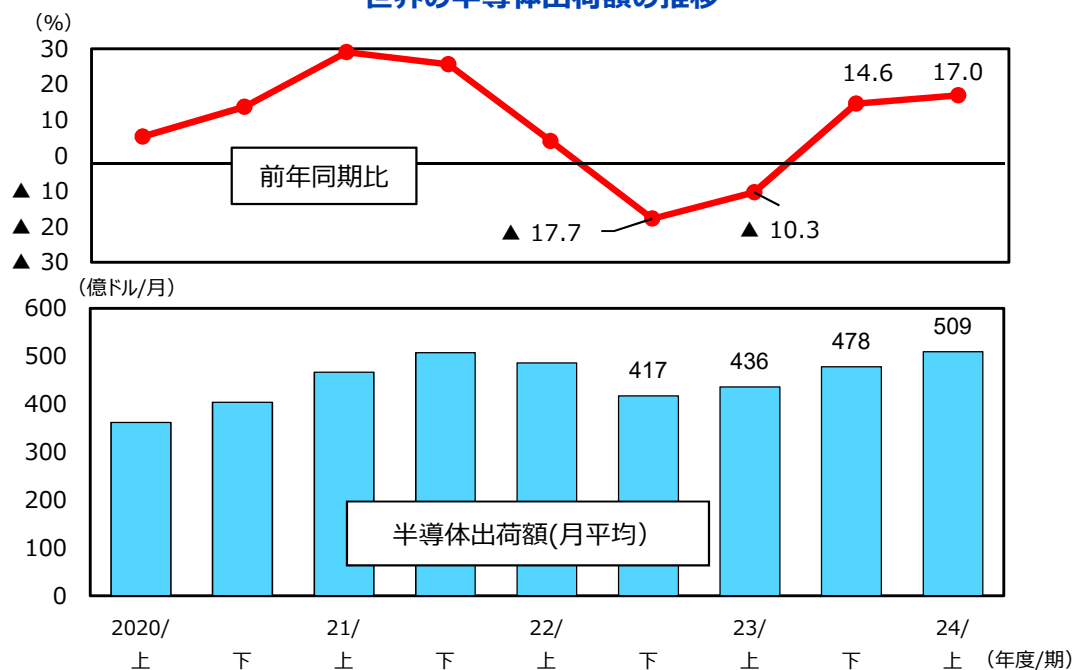
6. 電子部品・デバイス ～堅調な需要を受けて生産の増加が続く～

最近の動き



- 需要は、生成AI関連向けの好調に加えて、PC・スマートフォン等の回復の動きも広がりつつあり、堅調に推移した。
- 因みに、2024年度上期（4～8月）の世界の半導体出荷額は堅調な需要に加えて販売単価の上昇などから、前年同期比+17.0%と2桁のプラスとなった。
- こうした中で、2024年度上期（同）の広島県の電子部品・デバイス工業の鉱工業生産指数は、堅調な需要と半導体メモリなど一部製品での生産体制増強の動きを反映して、216.4（前年同期比+20.0%）と前年を大幅に上回った。

世界の半導体出荷額の推移



(注) 24年度上期は4～8月

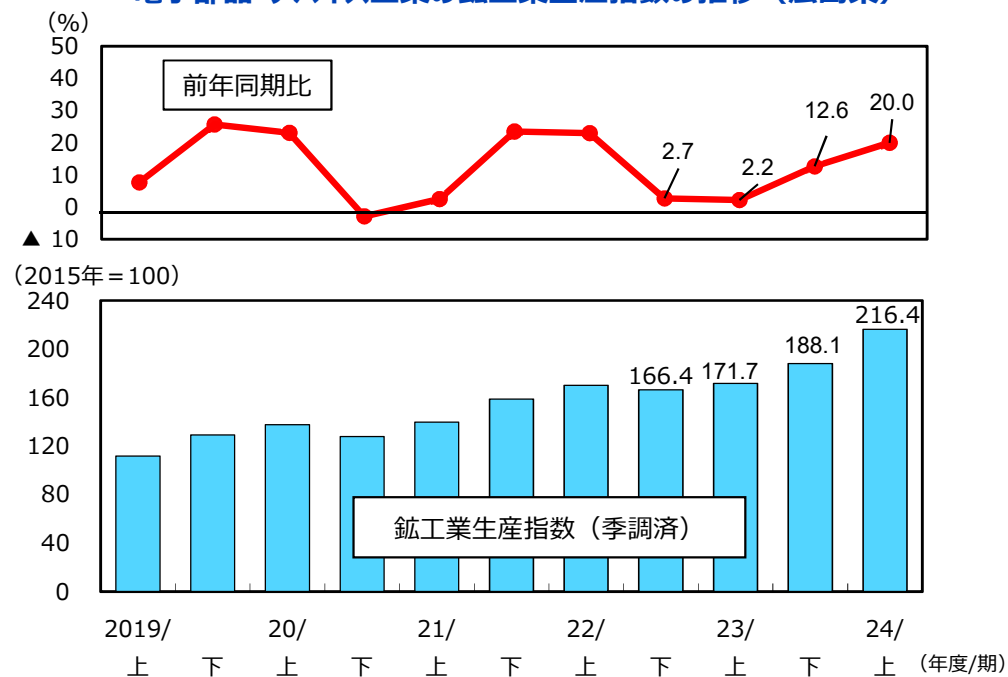
(資料) World Semiconductor Trade Statistics資料より当部作成

当面の見通し



- 需要は、生成AIやデータセンター向けの好調持続に加え、コロナ特需があった企業向けPC・タブレットなどの買い替え需要の顕在化も予想され、**上向きの動きが続く**とみられる。
- 生産は、堅調な需要を背景に**増加基調が続く**見通し。

電子部品・デバイス工業の鉱工業生産指数の推移（広島県）



(注) 24年度上期は4～8月

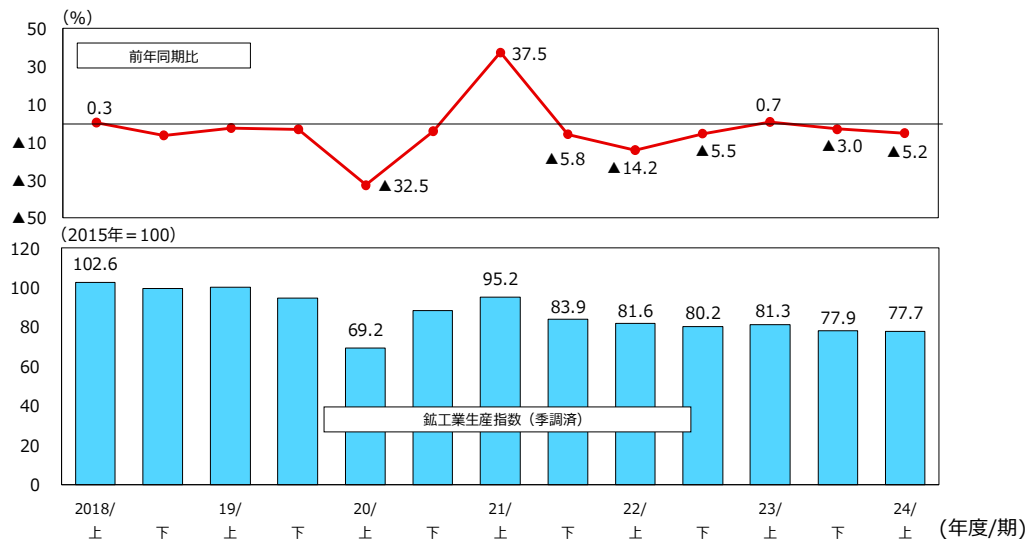
(資料) 広島県資料より当部作成

7. 鉄鋼 ～内需・外需ともに低調に推移～

最近の動き

- 需要は、内需が認証不正問題の影響が残る自動車向けの低迷から、外需も国内需要低迷を背景とした中国メーカーの輸出攻勢を受けてASEAN向け等が落ち込んだことから、ともに低調に推移した。
- 生産は、需要の低迷を受けて減少基調が続いており、2024年度上期（4～8月）の広島県の鉄鋼業の鉱工業生産指数は77.7（前年同期比▲5.2%）と引き続き前年割れとなった。
- 業績は、販売価格改善への取り組みは順調に進展したものの、生産の減少や資源・エネルギー価格の高止まり等から、減益を余儀なくされた。

鉄鋼業の鉱工業生産指数の推移（広島県）

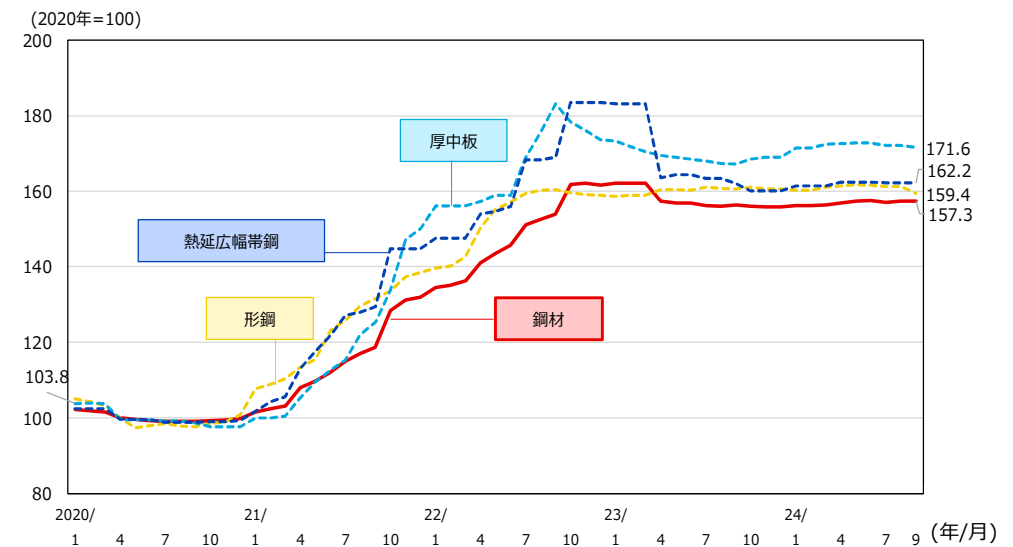


(注) 24年度上期は4～8月
(資料) 広島県資料より当部作成

当面の見通し

- 需要は、内需は人手不足を背景とした工期の長期化などから建設向けが弱含むことに加えて、主力の自動車向けの回復ペースも緩やかにとどまるとみられることから、伸び悩みが続くと予想される。また、外需も中国メーカーとの競合激化等から厳しい環境が続く公算が大きく、全体では**低調に推移**の見通し。
- 業績は、原材料コスト未反映分の価格転嫁進展が期待されるものの、低調な需要を受けて、**減益基調が続く**とみられる。

国内企業物価指数（鉄鋼製品）の推移



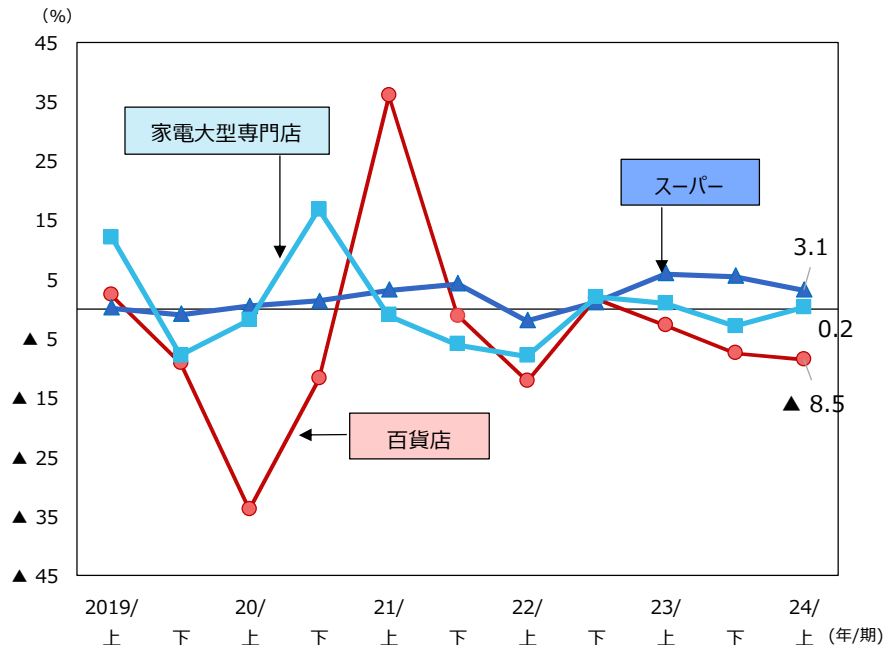
(資料) 日本銀行「国内企業物価指数」より当部作成

8. 大型小売 ～全体として伸び悩む～

最近の動き

- 2024年度上期の広島県のスーパー販売額（前年同期比＋3.1％）は、幅広い商品群での単価上昇に生鮮食品の相場高が加わって、前年を上回った。
- 百貨店販売額（同▲8.5％）は、美術品・貴金属等は堅調に推移したものの、主力の衣料品の不振や一部店舗閉店の影響から、前年を下回った。
- 家電大型専門店販売額（同＋0.2％）は、猛暑の影響からエアコン等の季節家電は伸長したものの、パソコンの不振等から前年比横ばいにとどまった。

大型小売販売額の推移（前年比、広島県）

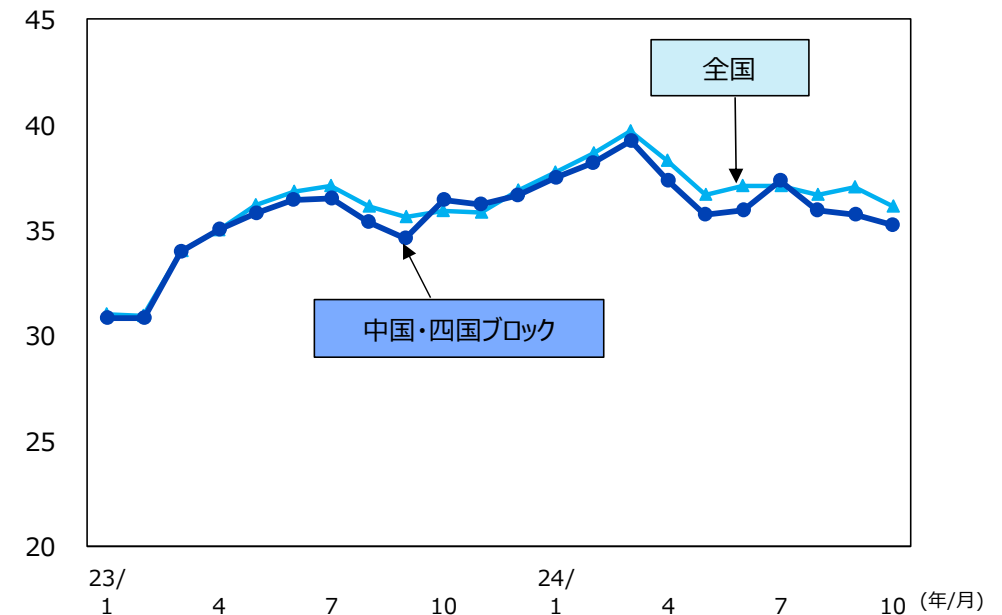


（資料）経済産業省「商業動態統計調査」より当部作成

当面の見通し

- **大型小売**は、所得環境改善の一方で、消費マインドの目に見えた改善は期待し難く、**全体として伸び悩む見通し**。
- **スーパー**は、**飲食料品を中心に底堅く推移**するとみられる。
- **百貨店**は、海外ラグジュアリーブランドや美術品・貴金属等は引き続き堅調に推移するとみられるが、基調としては**弱めの動きが続く**見通し。
- **家電大型専門店**は、**全体では底堅く推移**するとみられるものの、物価上昇の影響による冷蔵庫、洗濯機等の買い替え需要の後退が懸念される。

消費者態度指数の推移



（資料）内閣府「消費動向調査」より当部作成

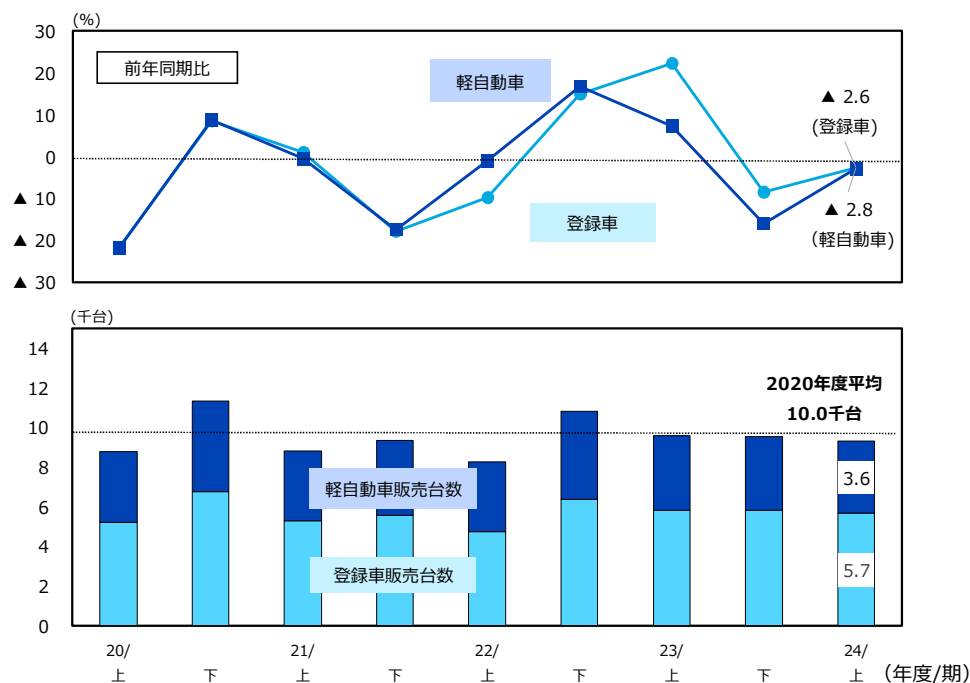
9. 自動車販売 ～不正認証問題がほぼ解消され回復に向かう～

最近の動き



- 2024年度上期の広島県内の自動車販売台数は、新車は9.3千台/月（前年同期比▲2.7%）と、一部自動車メーカーの不正認証問題などの影響から、登録車（5.7千台/月、同▲2.6%）・軽自動車（3.6千台/月、同▲2.8%）ともに前年を下回った。
- 中古車は5.6千台/月（同+0.9%）と、不正認証問題から供給が滞った新車からの需要シフトもあり、前年を僅かながら上回った。
- 業績は、新車販売の低調を受け、全体では減収減益となった。

新車販売台数の推移（月平均、広島県）



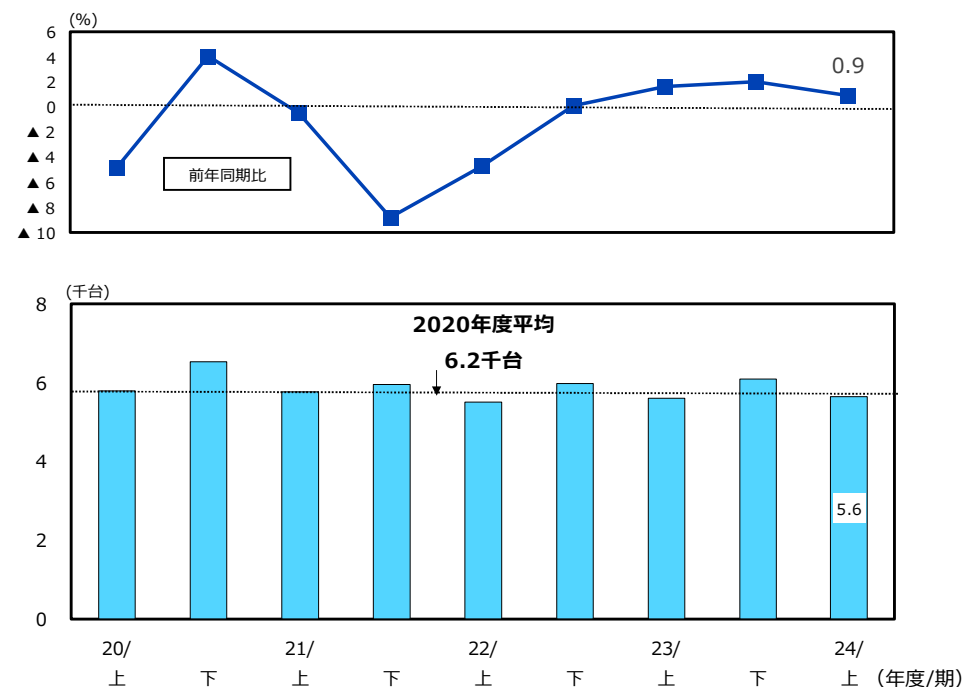
（資料）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会資料より当部作成

当面の見通し



- **新車販売**は、不正認証問題がほぼ解消される中で、秋口にかけて自動車メーカーの新モデル投入(※)や一部ディーラーの販促効果も期待され、**回復に向かう**公算が大きい。
 - **中古車市場**は、需要は引き続き旺盛なものの、上期の新車販売の低迷を受けて品不足感が強まるとみられ、**伸び悩む**見込み。
 - **業績**は、新車販売の回復を受けて**改善に向かう**見通し。
- (※) マツダ「CX-80」、ホンダ「N-BOX JOY」、スズキ「フロンクス」など

中古車販売台数の推移（月平均、広島県）



（資料）日本自動車販売協会連合会資料より当部作成

10. ホテル ～インバウンドの拡大から宿泊の好調が続く～

最近の動き



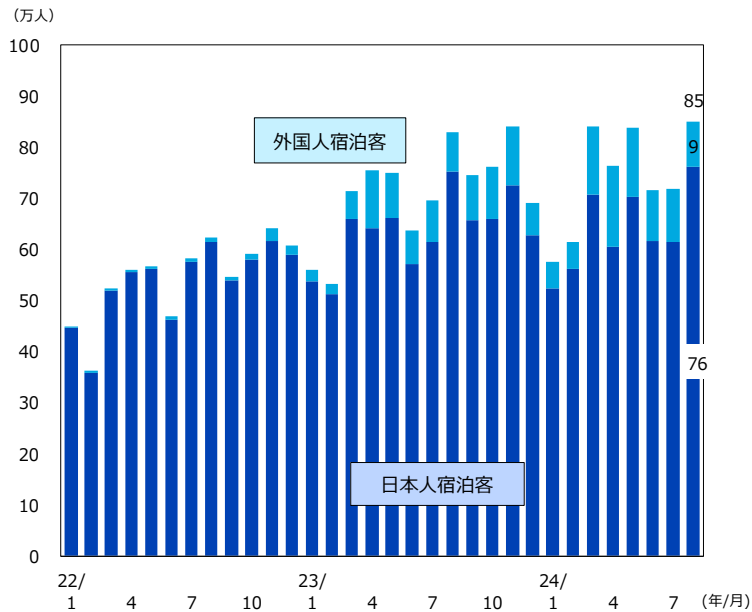
- 宿泊部門は、国内客はビジネス利用を中心に伸び悩んだものの、円安等を背景とした外国人客の増加や客室単価の上昇により、総じて好調に推移した。
- 宴会・婚礼部門は、宴会は飲食を伴う会議やパーティ等の法人需要の増加により上向いたが、婚礼は成約件数は持ち直したものの小規模な披露宴が主流であり、伸び悩んだ。
- 料飲部門は、価格改定による客単価の上昇に加えて、宿泊客の利用増加から、堅調に推移した。

当面の見通し



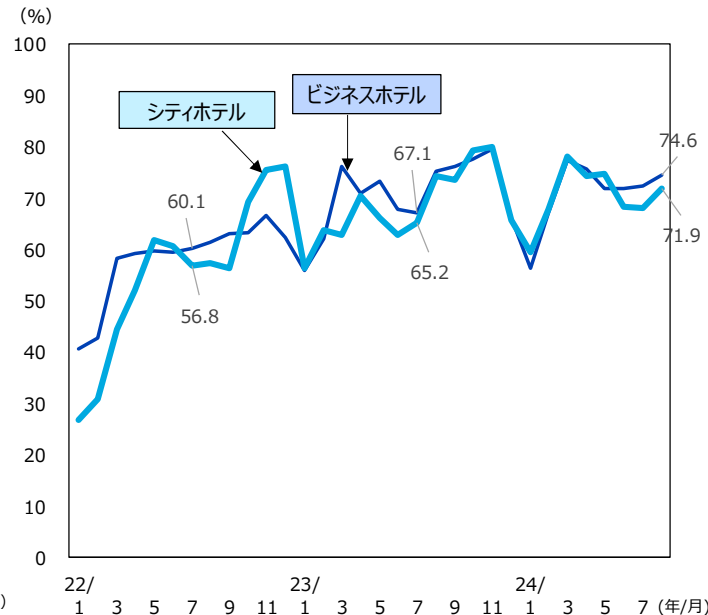
- 宿泊部門は、国内客は客室価格上昇の中で伸び悩みが予想されるが、インバウンドの増加から全体では**好調に推移**する見込み。
- 宴会・婚礼部門は、法人需要の回復を受けて**宴会では持ち直しの動きが続くが、婚礼は伸び悩む**見通し。
- 料飲部門は、インバウンドを中心とした宿泊客の利用増に加えて、イベント開催等による地元客の誘客強化等により、**堅調な推移**が見込まれる。
- 業績は、光熱費や清掃費などの経費や人件費の上昇が下押し要因となり、**緩やかな回復**にとどまる見通し。

ホテルの延べ宿泊者数の推移（広島県）



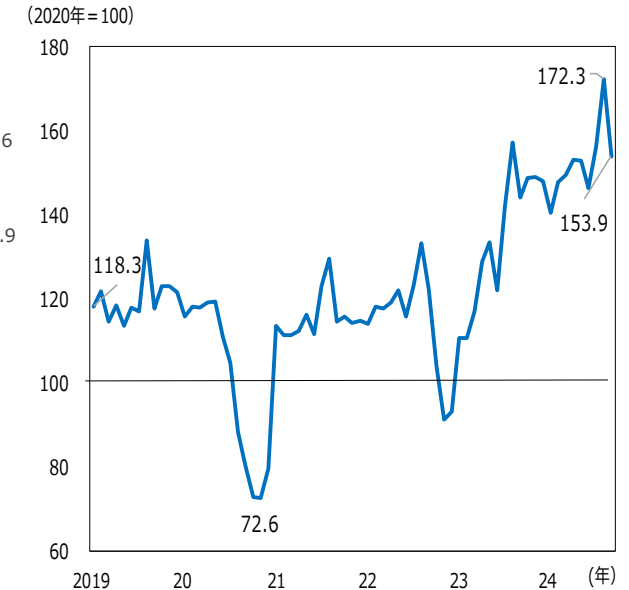
（資料）観光庁「宿泊旅行統計調査」より当部作成

ホテルの客室稼働率の推移（広島県）



（資料）観光庁「宿泊旅行統計調査」より当部作成

宿泊料の推移（全国）



（注1）直近は2024年9月

（注2）消費者物価指数ベース

（資料）総務省「消費者物価指数」より当部作成

11. 建築・土木 ～民間工事・公共工事とも底堅く推移～

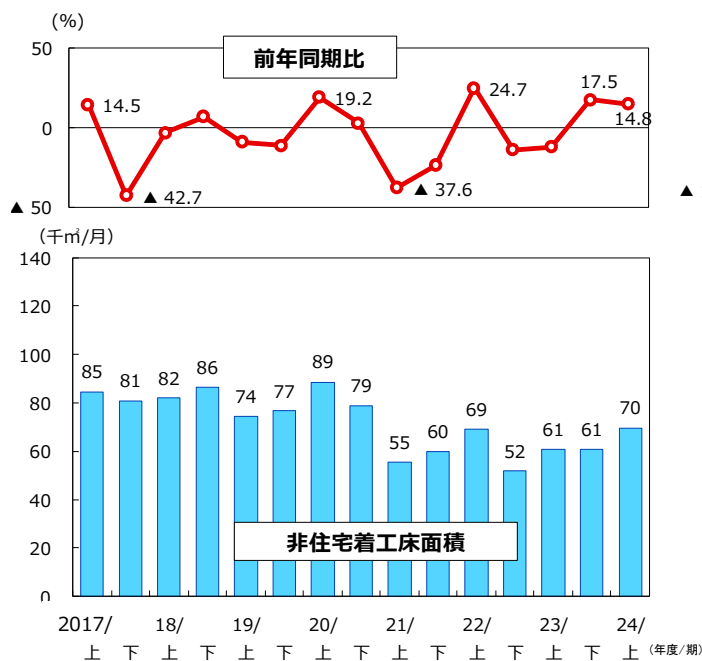
最近の動き

- 2024年度上期の広島県の非住宅着工床面積は、70千㎡/月（前年同期比+14.8%）と、広島市中心部における再開発事業の大型着工などから前年比2桁の増加となった。
- 一方、公共工事請負金額は260億円/月（同▲19.3%）と、高水準であった前年を下回った。
- 業績は、資材費・人件費の高止まりはあるものの、工事価格への転嫁も進んでおり、総じて良好な水準が続いている。

当面の見通し

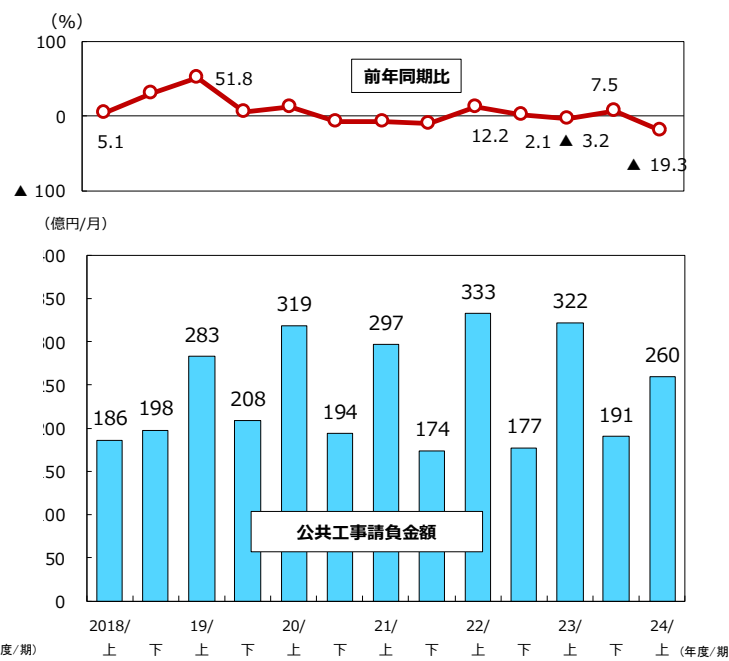
- **民間工事**は、建設工事費の上昇を受けて床面積ベースでは伸び悩むとみられるものの、都市部での再開発事業の進展や工場等の設備投資の増加もあり、**底堅く推移**する公算が大きい。
- **公共工事**も、国土強靱化施策に基づく防災・減災対応工事などを中心に**比較的高い水準での推移**が見込まれる。
- **業績**は、安定的な需要を背景とした採算重視の受注姿勢の中で、総じて**堅調が続く**公算が大きい。

非住宅着工床面積の推移（月平均、広島県）



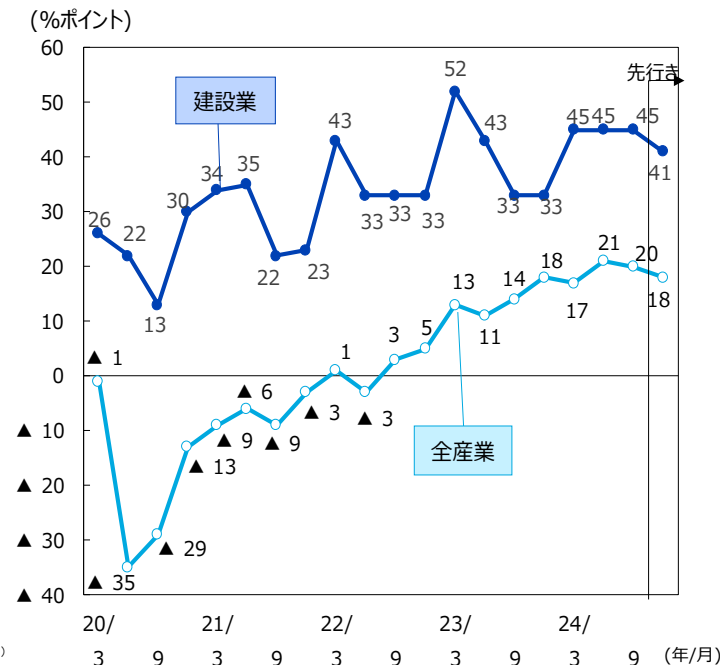
(資料)国土交通省「建築着工統計」より当部作成

公共工事請負金額の推移（月平均、広島県）



(資料)西日本建設保証(株)「広島県の公共工事動向」より当部作成

業況判断DIの推移（広島県）



(注) 業況判断DI = 業況が「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合
(資料) 日銀広島支店「短観」より当部作成

12. 住宅・マンション ～価格上昇を受けて低調に推移～

最近の動き



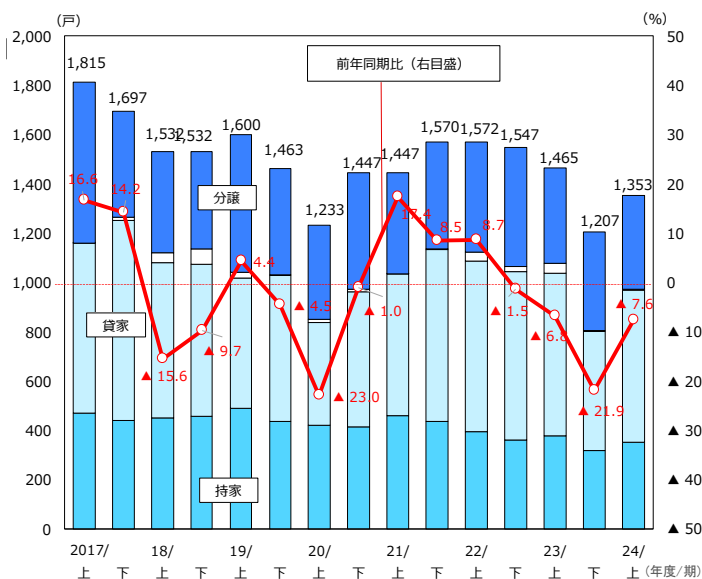
- 2024年度上期の広島県の新設住宅着工戸数は前年同期比 ▲7.6%と、建築コストの高騰を受けた住宅価格の上昇を背景に前年を下回った。
- 種類別には、持家（同 ▲7.1%）、貸家（同 ▲6.4%）の低迷が続き、マンションを中心とした「分譲」（同 ▲1.5%）も微減となった。
- 業績は、販売の落ち込みに加え、仕入地価や資材費、労務費等の上昇により、前年を下回った。

当面の見通し



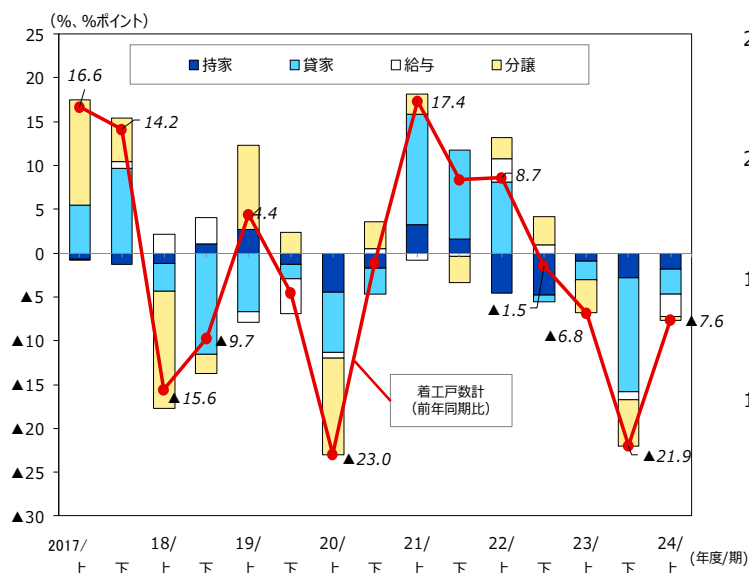
- **需要**は、住宅価格上昇の中で買い控えの動きが続くとみられ、**低調に推移**する可能性が高い。
- **業績**は、需要の低迷に加えて、資材費・労務費等のコスト増加が続くとみられ、**厳しい状況が続く見通し**。

新設住宅着工戸数の推移（月平均、広島県）



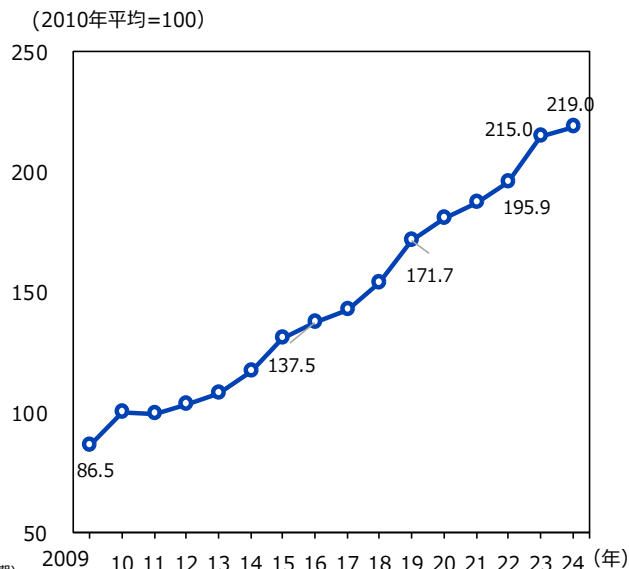
（資料）国土交通省「住宅着工統計」より当部作成

新設住宅着工戸数の推移（前年比、広島県）



（注）種類別の内訳は寄与度
（資料）国土交通省「住宅着工統計」より当部作成

マンション価格指数の推移（中国地方）



（注）2024年は1～7月、サンプル数が少ないため参考値
（資料）国土交通省「不動産価格指数」より当部作成

13. 陸運 ～業績改善には時間を要する～

最近の動き



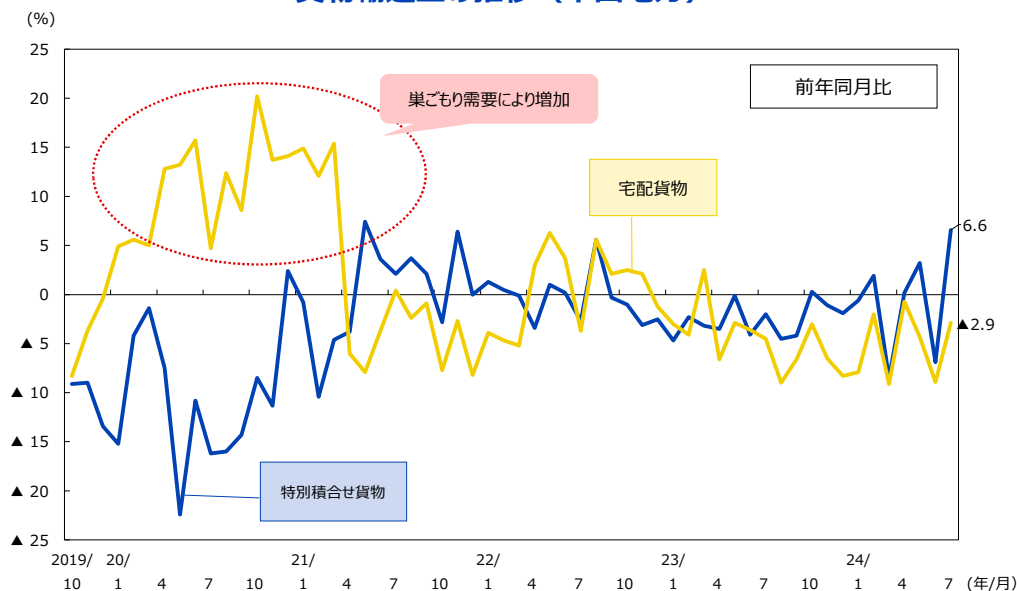
- 荷動きは、インターネット販売の伸び悩みから宅配貨物の前年割れが続いたほか、自動車や機械を中心に法人需要も弱含んだことから、総じて低調に推移した。
- 業績は、運賃引き上げ交渉が進展する企業が増えているものの、燃料費・人件費等の価格転嫁は遅れており、総じて低調に推移した。
- 因みに、当部アンケート調査（2024年10月実施、速報ベース）によれば、県内の陸運企業の経営状況DIは▲13.8%ポイント(4月調査比▲10.0%ポイント)に低下した。

当面の見通し



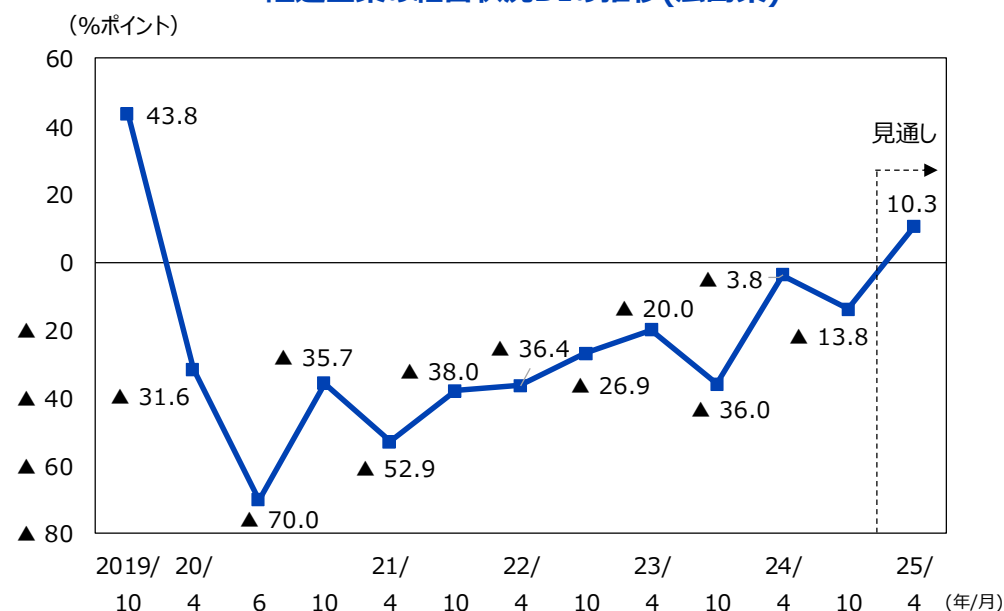
- 荷動きは、自動車を中心とした生産の回復に伴い法人需要が持ち直すとみられ、全体としては**緩やかながら改善に向かう**見通し。
- 業績は、「2024年問題」を踏まえて運賃値上げの動きが広がるとみられるが、人件費等のコスト増加に見合った価格転嫁は難しく、**改善には時間を要する**見通し。
- なお、年度末にかけては「年間960時間」の時間外労働の上限を睨みドライバーの不足感がさらに強まるとの見方もあり、運賃が大きく上昇する可能性もある。

貨物輸送量の推移（中国地方）



(注) 特別積合せ貨物は主要事業者2社計、宅配便は主要事業者3社計
(資料) 中国運輸局資料より当部作成

陸運企業の経営状況DIの推移(広島県)



(注) 経営状況DI=「良い」企業の回答割合-「悪い」企業の回答割合
(資料) ひろぎん経済研究所、当部「経営者アンケート」

14. 海運 ～輸送距離の伸長等から高水準が続く～

最近の動き



- 用船料は、荷動きが全体として底堅く推移する中で、紅海情勢の悪化等による輸送距離の伸長もあり、総じて上昇した。
- コンテナ船は、上昇基調が続いたが、足下では米国向けの需要が弱含んでおり、頭打ちとなっている。
- バラ積み船・タンカーは、前半は紅海情勢の悪化やロシア・ウクライナ情勢の長期化の中で上昇基調が続いたが、後半はパナマ運河の通航制限緩和を受けてやや軟化した。

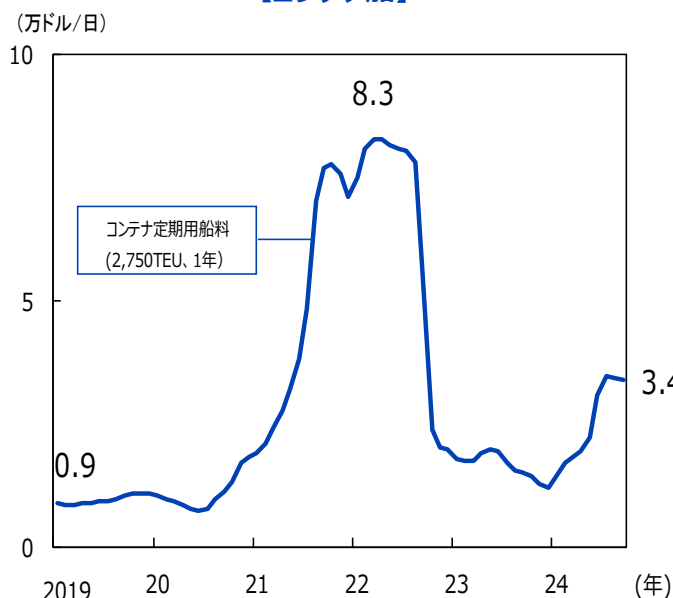
当面の見通し



- **用船料**は、米国経済の減速や中国景気の低迷などを背景に荷動きは伸び悩むとみられる。
- しかし、紅海情勢悪化によるスエズ運河避航の長期化が想定されることに加え、船腹不足が運航スケジュールの乱れなどの二次的な影響を引き起こしていることもあり、総じて**高水準が続く**見通し。

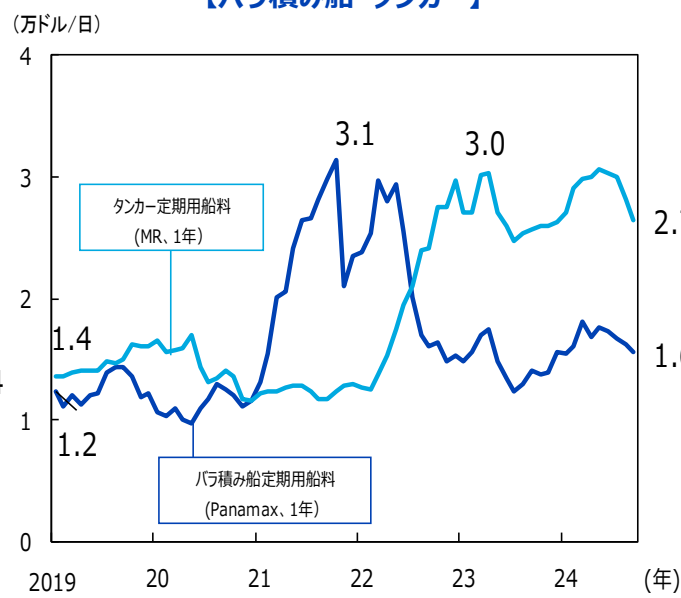
定期用船料の推移

【コンテナ船】



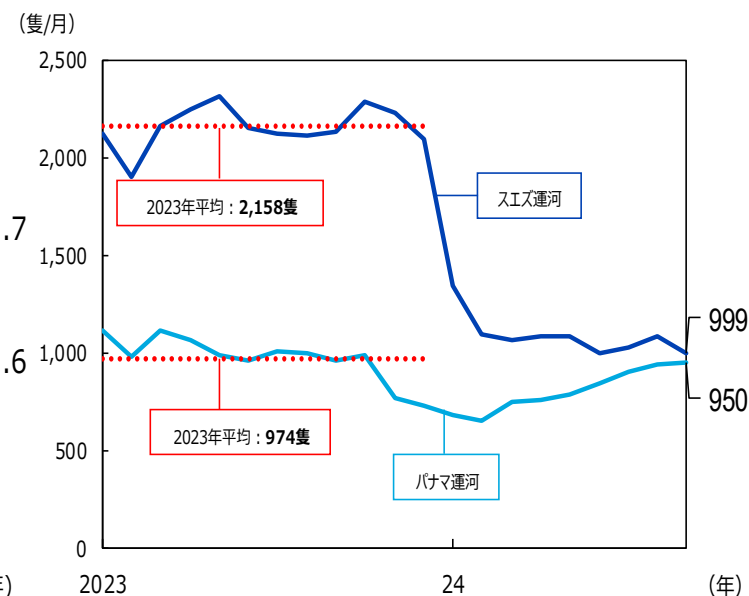
(注) 各年月次ベース、直近は2024年9月
(資料) Clarksons Researchより当部作成

【バラ積み船・タンカー】



(注) 各年月次ベース、直近は2024年9月
(資料) Clarksons Researchより当部作成

2大運河の通航量の推移



(注) 各年月次ベース、直近は2024年9月
(資料) Clarksons Researchより当部作成